

マダガスカル
外国人材受入パイロット
事業説明会
～マダガスカル農業人材
の活躍支援に向けて～

JICAマダガスカル事務所

JP-MIRAI

プログラム

- ・ 冒頭挨拶
- ・ マダガスカルのご紹介
- ・ パイロット事業紹介
- ・ 関心企業・団体の募集について
- ・ 質疑応答
- ・ 閉会挨拶



A photograph of two lemurs, an adult and a baby, perched on a tree branch. The adult lemur is in the foreground, looking directly at the camera with its characteristic white fur and black face. The baby lemur is sitting on its back, also looking towards the camera. The background is filled with green leaves and branches, suggesting a natural habitat.

マダガスカルの紹介

マダガスカル 基本情報

- ・ 国名：マダガスカル共和国
- ・ 面積：587,041km²（日本の約1.6倍）
- ・ 人口：約28.9百万人（2021）
- ・ 民族：アフリカ大陸系、マレー系（約18の部族）
- ・ 公用語：マダガスカル語、仏語
- ・ 宗教：キリスト教、伝統宗教、イスラム教
- ・ 首都：アンタナナリボ



マダガスカル 社会・経済指標

【社会指標等】

- ・ 出生時平均余命：64歳（2021/世銀）
- ・ 5歳未満児死亡率（1000人あたり）：66人（2021 /世銀）
- ・ 若年層識字率：81%（2021/世銀） 初等教育修了率：63%（2021 /世銀）
- ・ 人間開発指数：0.501 （2021/UNDP）

【主要経済指標等】（2021/世銀）

- ・ GNI/人：490米ドル（Atlas）
- ・ GDP 実質成長率：4.4%
- ・ 消費者物価上昇率（インフレ率）：7.4%
- ・ 海外からの個人送金受け取り額：GDPの3.0%

マダガスカル 日本との関係

- ・総貿易額：

輸出19.6億米ドル(対日193.7億円)、輸入32.3億米ドル(対日14.3億円) (2020年)

- ・対日主要貿易品目

輸出 鉱物(ニッケル、コバルト他)、香辛料(クローブ、バニラ)、カカオ、魚介類 など

輸入 自動車、医薬品、タイヤ等ゴム製品等

- ・在留邦人151人(2021.10現在)

- ・在日マダガスカル人125人(2021年12月末現在)

- ・歴史

1963年、通商協定締結。1968年、在マ日本大使館設立。

1965年、大洋漁業がマジュンガに日仏合弁会社(マダガスカル水産会社)を設立し、エビなどの水産物を日本へ輸出。2009年の政情悪化により援助停止、マルハニチロホールディングは撤退。

住友商事が32.5%を出資(2017年、47.7%に増資)して世界最大規模のニッケル生産事業(アンバトビー)を開始(2012~)。

マダガスカル の 主要産業：農業

- ・ 人口の86.5%、83.2%の家庭が農業に従事しています（2018/INSTAT）
- ・ （農業が77.9%、畜産業が71.3%、漁業は18.1%。
農業と畜産を両方実施している家庭は61.2%）

種類	割合 (%)
稲作	68.6
イモ類	56.3
米以外の穀物 (トウモロコシ、小麦など)	46.0
豆類	37.0
果物・野菜	28.4
工業作物 (砂糖、油の原材料、麻など)	27.3
換金作物 (バニラ、グローブなど)	17.1







畜産

養鶏は全国的に育てている家庭が多く、牛（基本的に肉牛）も一般的です。養豚が盛んなエリアは地理的（文化的）に限られていますが、中央高地が主な産地です。

種類	割合（％）
鶏	61.2
牛	36.1
豚	22.0
羊・ヤギ	8.1
養蜂	2.1
養蚕	0.2



高学歴の若者の失業率が高い

- ・失業率は4.2%（都市8.7%、農村部3.2%）（2018/INSTAT）

- ・若年人口・高学歴の失業率が高い傾向にあります

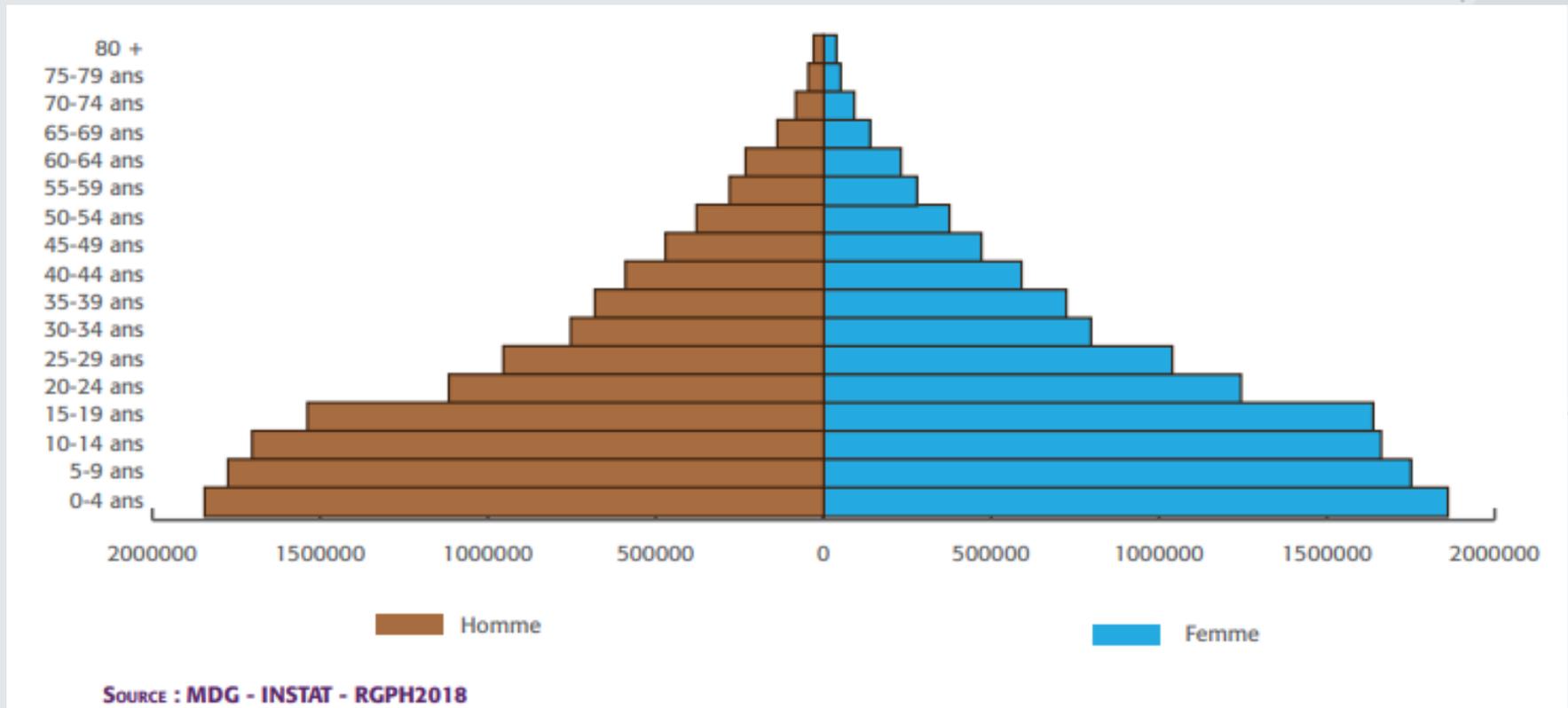
 - 15歳～30歳 7.2%（都市部15.9%、農村部5.5%）

 - 大卒以上 9.1%（初等教育修了 2.9%）

→経済規模に対して学士、修士を持つ国民が多く感じられますが、その受け皿となる産業があまり発達していません

増え続ける労働人口

平均年齢は22.4歳（中央値は18.0歳）と若年人口が非常に多く、増え続けています。



生活水準は非常に低い

- ・電化率は36.5%（2018）（都市部は71.2%ですが、農村部は28.3%）
- ・インターネット普及率は3.7%（2018）（都市部13%、農村部1.4%）
つながるエリアは広いですが、その媒体（スマートフォンやパソコン等）を持っている人口が少ない
- ・ラジオ、テレビ、PC、携帯等、何らかのコミュニケーション手段を持っている人は73%。
ラジオが一般的です。
- ・飲料水へのアクセスのある人口22.7%（2018）（都市部65.6%、農村部18.6%）







食生活

- ・ お米が主食で、一人当たり年間100kg程度消費するといわれています（2018、FAO・WFP）
（日本は年間50.8kg（2020年、農水省））
- ・ 野菜・フルーツもよくとれますが、米に比較すると高価なので消費量は限定的です。
- ・ おかずは肉が一般的です。牛、豚、鶏の順に安いです。魚は沿岸や湖の近くでは食べることもありますが、コールドチェーンが発達していないため、内陸部では高級品です。
- ・ しばしばフランスパンも食堂で提供されます。



定番の朝ごはん
Vary Anana
青菜入り雑炊です
1杯 1000Ariary (30円) 程度

昼食
米とおかず
(写真は豆と豚)
3000Ariary (100円) 程度



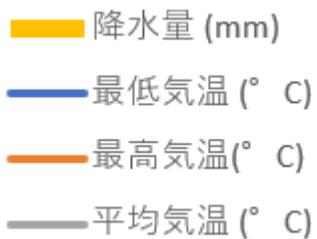
米粉とココナツミルクを混ぜて
丸めてあげたおやつ

1つ 100Ariary (3円) 程度

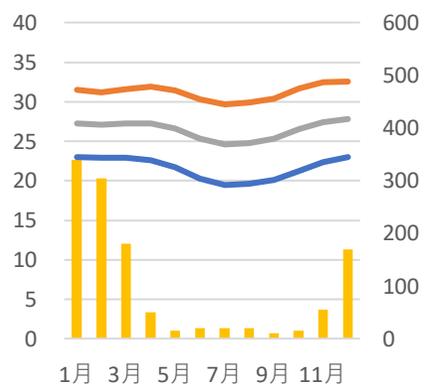


Mi-saoと呼ばれる焼きそば（焼きスパ
ゲッティ）のようなもの
どこかアジア風の料理も多いです

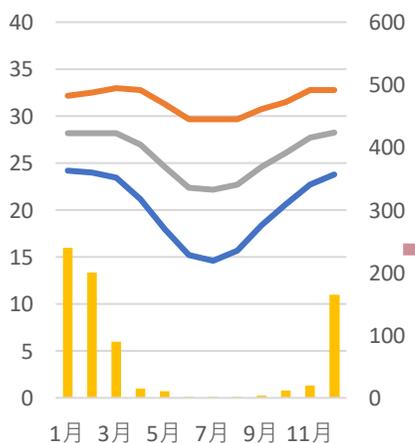
氣候



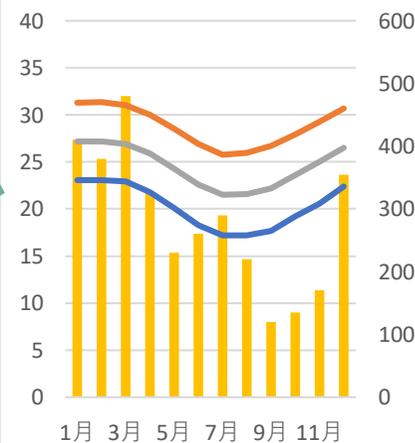
北部



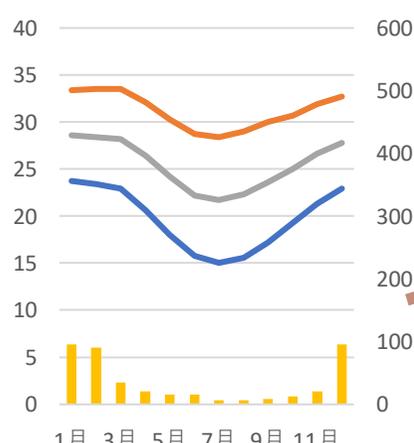
西部



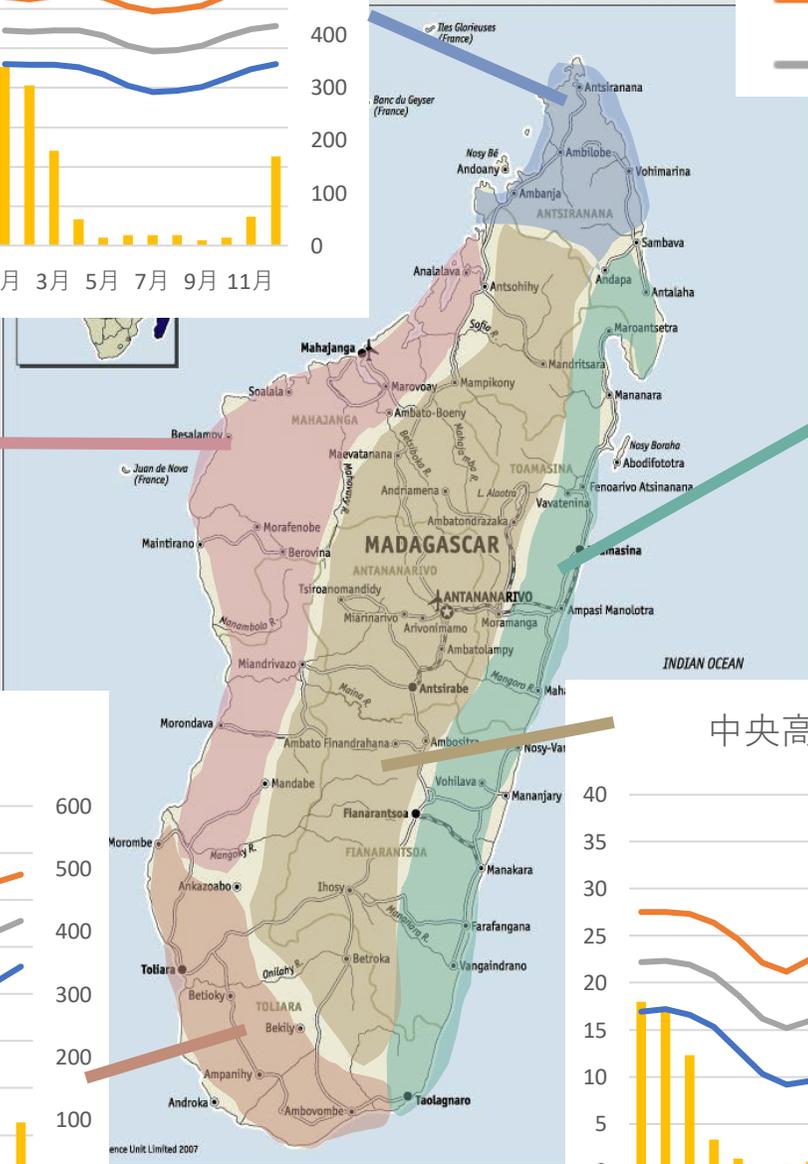
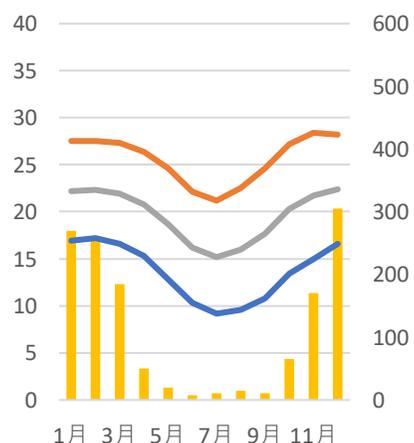
東部



南西部



中央高地



パイロット事業紹介



マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト — 背景 —

外国人材の不足見通し

- 2040年には約674万人の外国人材が必要になるとの試算（2020年時点では172万人）*
- 東南アジア以外にもアフリカ等新たなフロンティア開拓の必要性も指摘されている

マダガスカルの特徴

- どこか日本人らしい性質を感じる勤勉な国民性
- アジアをルーツに持つ人も多く、最もアジアに近いアフリカ
- 稲作、野菜、果樹、日本でも生産されている作物も多く、他方で課題は多いため日本からの技術移転は有効

日本の労働力不足解消と、マダガスカルの農業・農村開発を担う人材育成でWinWinの関係が構築できるのではないかと？

*出所：緒方貞子平和開発研究所「2030/40年の外国人との共生社会の実現に向けた取り組み調査・研究報告書」

マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト

一 背景 (補足：マダガスカル人労働者の状況) 一

Tableau 15. Estimation de l'importance de la présence malagasy à l'étranger selon différentes bases de données

Pays d'accueil	Docquier*(2000)	OCDE**(2000)	Banque mondiale*** (2007)
Belgique	728	885	1 608
Canada	1 600	1865	2 363
Comores	3 551	618	10 401
Etats-Unis d'Amérique	1 517	1 127	1 496
France	22 285	69 396	54 841
Italie	340	1 031	1 279
Maurice	409	548	1 174
Norvège	303	316	551
Royaume-Uni	691	762	1 045
Suisse	702	838	1 102
Autres pays	3 152	1 194	3 951
Total	35 278	78 580	79 811

* Artuc E., Docquier F., Ozden C. et Parsons Ch., (2013). A global assessment of human capital mobility: the role of non-OECD destinations. Le site internet <http://perso.uclouvain.be/frederic.docquier/> a été visité le 10 octobre 2013.

** OCED Base de données sur le site internet <http://www.oecd.org/els/mig/oecd-migration-databases.htm> visité le 10 octobre 2013.

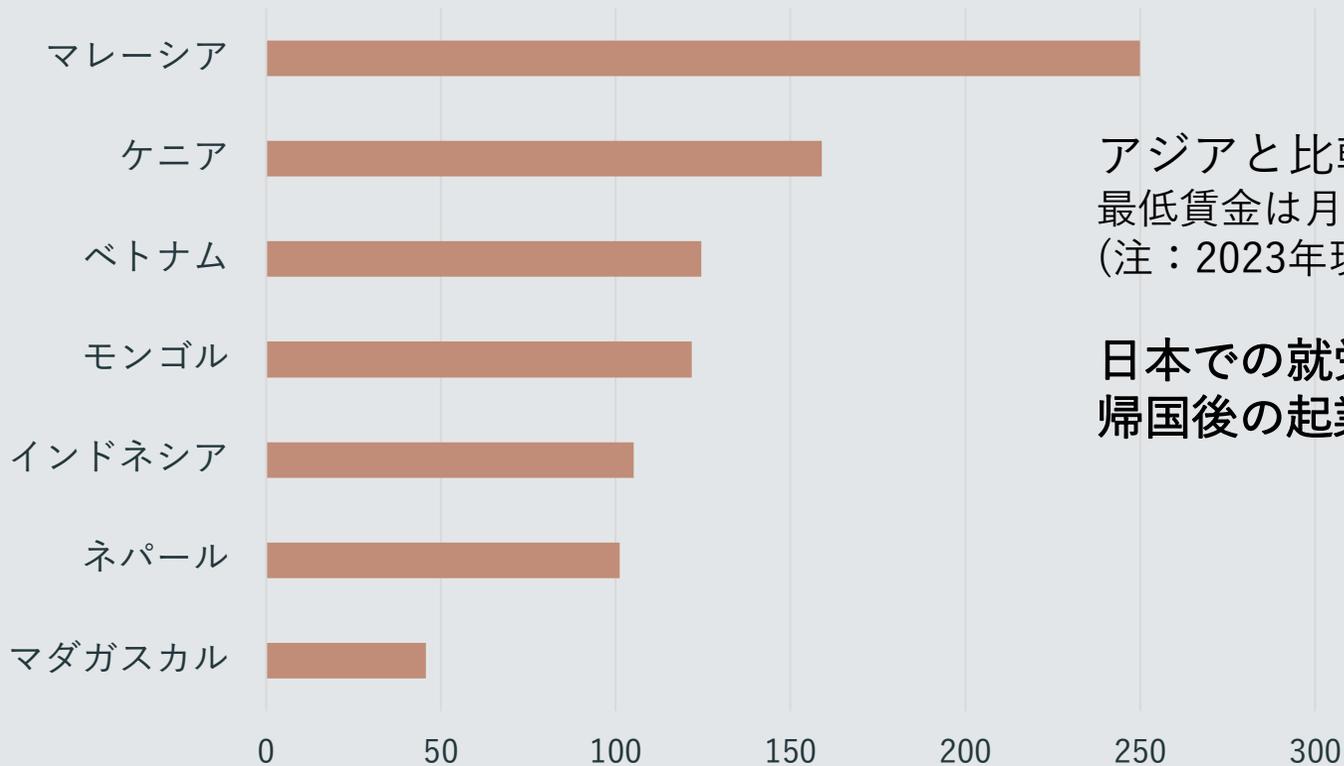
*** Banque mondiale, Base de données bilatérale sur les migrations accessible à l'adresse data.worldbank.org/data-catalog/global-bilateral-migration-database.

- 海外への出稼ぎ労働者の数は限定的。
- 左表は、海外で働くマダガスカル人労働者の数。仏やコモロが多いが総じて数は非常に少ない。
- 現在はカナダ（仏語圏ケベック州）と熟練労働者送出プログラムを実施中。

マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト

一 背景 (補足：マダガスカル人労働者の状況) 一

最低賃金 (月額 USD)



アジアと比較して格段に安価な人件費
最低賃金は月額45米ドル (約6000円) 程度
(注：2023年現在は54米ドル (約7600円))

日本での就労を通じて得た収入で
帰国後の起業や投資の促進も期待できる

マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト — 内容 —

・目的

マダガスカルの若手農業人材を日本へ特定技能労働者として送り出し、マダガスカルの農業分野の人材育成及び日本の労働力不足解消へ貢献する

・活動

派遣前訓練の実施（日本語研修・技術研修）

送り出しに向けたマダガスカル政府の手続き・制度の整備

日本側受け入れ機関の開拓・マッチング支援

送り出し後の定期的な研修、帰国後のアクションプラン策定支援

マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト — これまでの活動 —



2022年5月 北岡前JICA理事長のマダガスカル訪問

マダガスカル大統領との対話を切っ掛けに本格始動



2022年8月 宍戸上級審議役のマダガスカル訪問

マダガスカル政府とパイロットプロジェクトの大枠を議論



2023年1月 プロジェクト枠組み合意

大統領府、外務省、公安省、雇用・労働・社会法・社会保障省、職業訓練省、農業・畜産省とプロジェクト枠組み文書に署名

マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト — これまでの活動 —



2023年1月 候補者募集開始

農業・畜産省及び職業訓練省より、傘下の農業研修センター・技術高校等を卒業した人を対象として募集



2023年2月 面接・候補者確定

200名を超える応募から、書類選考・面接を経て、20名の候補者を選出



2023年2月 日本語研修開始

20名の候補者に対して日本語研修を開始

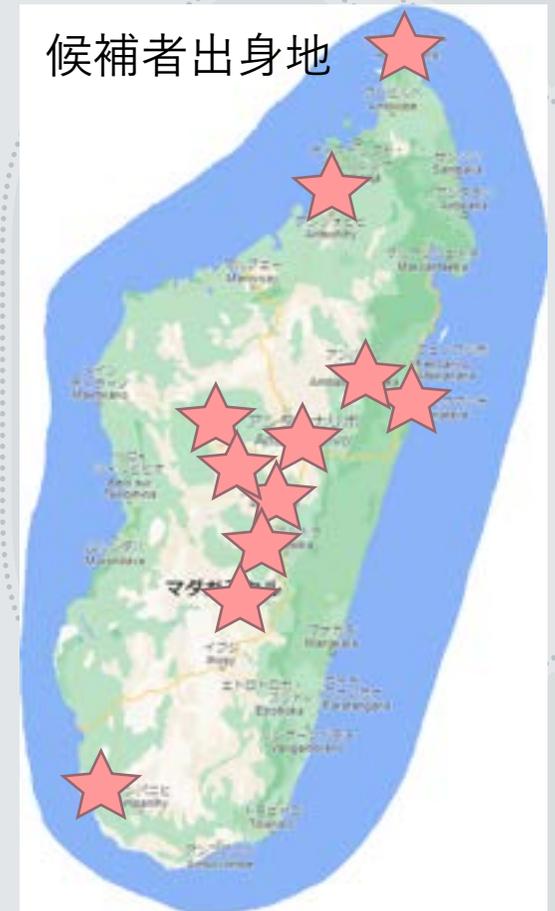
マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト ー 日本語研修 ー

- ・7月のN4取得に向け研修実施中
10人ずつ2グループに分かれて実施
週5日4時間講義＋自習
週に1回程度文化体験



マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト — 候補者バックグラウンド —

- ・ 男性12名、女性8名
- ・ 年齢 21歳～29歳
- ・ 学位（最終学歴）
 - 農業技術高校：3名
 - CAFPA（専門学校相当：農業職業訓練研修センター）：3名
 - EFTA（短大相当：農業技術者研修学校）：6名
 - CFFAMMA（農業機械化センター） 学士：2名
 - 学士：4名
 - 修士（農業エンジニア）：2名
- ・ 農業経験
 - 稲作、野菜、果樹
 - 畜産（豚、鶏、牛）



マダガスカル日本での就労を通じた農業人材育成 パイロットプロジェクト — 紹介動画 —

マダガスカルの農業と若手農家たちを紹介する動画です

<https://youtu.be/XCnry8ZZaVg>



A young woman with dark hair, wearing a blue headband and a patterned orange top, is smiling broadly and waving her hands. She is in the foreground, surrounded by a crowd of people, some of whom are also waving. The background is slightly blurred, showing more people and greenery. The overall atmosphere is positive and energetic.

関心企業・団体の募集に
ついて

募集内容

- ・2024年3月頃（最短）からのマダガスカル人労働者受け入れに関心のある企業・団体
- ・条件
法令を遵守した受入が可能であること

募集内容

◆ JICAで行う支援・活動

日本語試験・技能試験の受験支援

職業紹介会社の紹介

送り出し手続きのサポート

来日後、年に一回程度のフォローアップ研修（経験共有など）

◆ 費用

通常の特定技能受入と同様のコストがかかります

全体の流れ（暫定）

- ・6月～ 関心企業・団体の募集

（7月～9月 候補者の各種資格試験受験）

- ・10月～ 採用活動開始

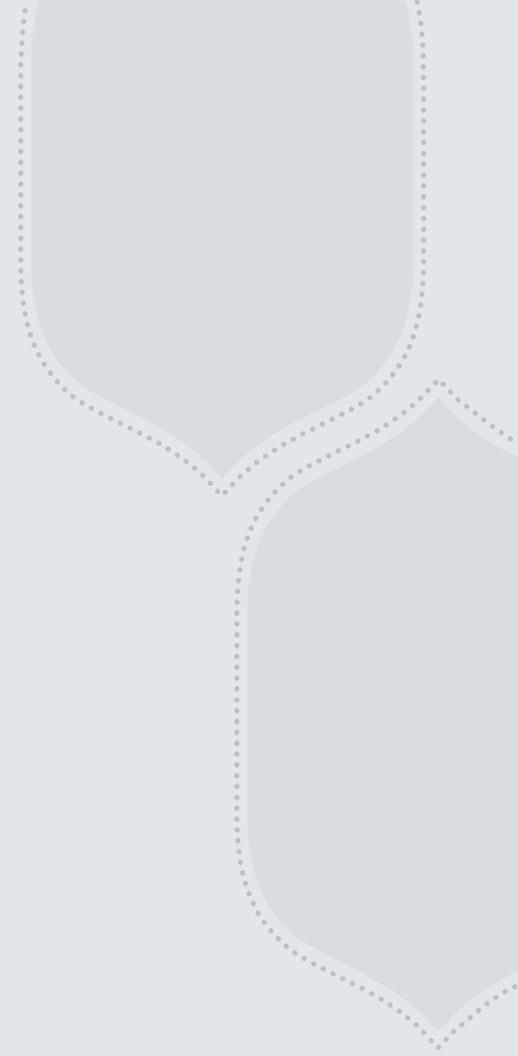
JICAと連携する職業紹介会社より、求人情報の受付のご連絡をさせていただきます

申し込み方法

- ・今後本件に関して継続的にご連絡を受け取りたい方は
フォームよりご登録をお願いします。
ご連絡先、会社概要、HPなどの情報をお伺いします

マダガスカル外国人材パイロット
プロジェクトご関心表明フォーム





ご清聴ありがとうございました

(補足) なぜJICAで外国人材受入支援？

・ 背景

日本で働く外国人労働者の送り出し国は多くが開発途上国。

今までは技能実習として来日しても、帰国後に日本で得た経験が上手く還元されていなかった例も多かった。

また、不適正な受け入れ（仕事のミスマッチ、悪質な労働環境等）のケースも報告されていた。

⇒開発途上国と日本、双方の発展のためにJICAに果たせる役割があるはず！

- ・ 日本が外国人労働者から「選ばれる国」となり、またその経験が各国の発展に活かされるように、JICAでも様々な取り組みを始めました。

来日前：日本センターで情報提供

滞在中：国内拠点で多文化共生を後押し

帰国後：技術協力、草の根協力などで日本で得た技術を活かせる場づくりをサポート

詳しくはWebページもご覧ください！：

[外国人材受入れ・多文化共生に資するJICAの取り組み](#)

[外国人材受入れ支援 | JICA in Action | JICA](#)

[外国人材受入れ・多文化共生支援 | 事業ごとの取り組み | 事業・プロジェクト - JICA](#)